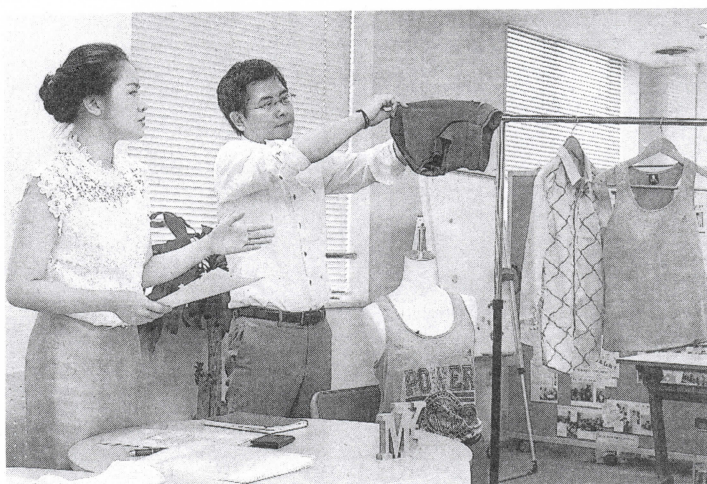


LGBT向け衣料品販売へ

日本人とタイ人の夫婦 富士に会社設立

胸や股の部分 目立たぬよう配慮

日本人とタイ人のカップルが、LGBT（性的少数者）の先進国といわれるタイのLGBT向け衣料品を扱う会社を7月に富士市に設立し、輸入に乗り出す。国内でも東京都渋谷区が同性カップルに「パートナーシップ証明書」を出すなどLGBTへの理解は広がりつつあるが、配慮がされている衣料品はまだほとんどないという。



輸入に乗り出すのは、富士市出身の安藤嘉晃さん（37）とタイ出身の萌唯さん（31）の夫婦。商社員だった嘉晃さんは赴任先のバンコクで萌唯さんと知り合い、昨年結婚した。「二人で一緒にいる時間を増やしたい」と会社を辞め、日本とタイを結ぶ貿易を始めることにした。

タイから輸入する品物と

発表会で、タイから輸入したLGBT用の衣料品を見せる安藤嘉晃さん（右）と萌唯さん。富士市永田北町の市産業支援センター

して思いついたのがLGBT向け衣料品だった。例えば男性として暮らすが身体的には女性の人向けのシャツは、胸が目立たないようにするサラシが内側についていたり、ブリーフには生理用品がはさめるポケットがついていたりする。

女性として暮らすが身体的に男性の人のショーツは、股の部分が目立たないように工夫されている。LGBTの多いタイでは一般用と並んで普通に売られているという。

タイ側の窓口となる会社は設立済みで萌唯さんが代表を務める。2人は嘉晃さんの故郷の富士市でも新たに輸入のための会社を起す。首都圏の百貨店などに置いてもらうことを目標に、今秋には販売開始にこぎ着けたいという。

嘉晃さんは「日本でのさきがけとしてチャレンジしたい」と意気込んでいる。

（六分一真史）